旅暮らしの寂しさ託す16の名曲

■スミ・ジョー（ソプラノ）「世界のラヴ・ソング」
韓国の生んだ世界的オペラ歌手が「23年間の歌手生活はつねに旅とともにあった」と言い「どこの国でも味わう故郷を喪失した思い、さびしさを1枚のアルバムに編んだ」。「日曜はダメよ」「ドナ・ドナ」「夢見る人」「ベサメ・ムーチョ」「忘れな草」「パリの空の下」「墳生の宿」「ケ・セラ・セラ」など16曲。どれもが「子どものころから慣れ親しんだ歌ばかりで、世界を映す鏡。せっかく録音するなら編曲にも凝り、それぞれの色合いを際立たせたかった」との思いもかない、デイヴィッド・ファーマン指揮ケルン新ライン室内管弦楽団が充実した音のじゅうたんを提供している。（ＣＤ、ユニバーサル）

■「ピアノ・デュオ　ドゥオール」　ドイツに留学した藤井隆史、白水芳枝のピアニスト夫妻が2004年に結成したデュオのデビュー盤。ルトスワフスキやラヴェルの切れ味にも事欠かないが、シューベルト「幻想曲」の味わい深さもなかなか。（ＣＤ、Ｎ．Ａ．Ｔ．）

■阿川泰子「ディア・ライブＤＶＤＢＯＸ」　今年デビュー30周年を迎えたジャズ歌手。スタンダード曲を収めたＣＤとライブ映像が楽しめるＤＶＤの４枚組。いまは亡き編曲・指揮者、ニック・デカロと共演した1990年のライブは貴重。（ＣＤ＋ＤＶＤ、ビクター）

■フラワーカンパニーズ「たましいによろしく」　1989年に結成した４人組ロックバンド。長くインディーズから作品を発表していたが、本作で７年ぶりにメジャーに復帰した。中年男の切なさや純粋さを表現した歌詞がシンプルな演奏に合う。（ＣＤ、ソニー）

■ザ・グレイト・ジャズ・トリオ「ブルー・マイナー」
90歳を迎え第一線で活躍するピアニスト、ハンク・ジョーンズの名人芸が堪能できる。1976年から続くグループはベース、ドラムの変遷を経て若々しさを保っている。（ＣＤ、ヴィレッジ・ミュージック）